



Title	和歌
Author(s)	音代, 湘園
Citation	懷徳. 1939, 17, p. 52-52
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/89032
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

和歌

近 詠

仲田應弘

ゆづりたる席に婦人はアツパツをはだけて大きな乳含ませぬ
引皮の間に手をばさし入れて軍馬勞る汗たるるままに
じやんけんをしてはらからの三人の其の幼きが浮輪持ちゆく
ささ濁り淺瀬の方に浮びたる子供の頭刈りたてにして

八月八日 晴雄に令狀來る

弟の召より歸り來るまでにこの上瘦せずあらむ母はも

人

音代湘園

噫忠烈從軍僧の熱辯に聽衆歔歔す涙新し（工兵少尉にして身延山の僧なり）
辛じて「天皇陛下萬……」までをかすかに唱へ果てしつはもの
應召兵を送る軍歌の列づく防空演習の暗黒の都市（事變發生當時）
敵機九百我空軍の羽搏きに慥伏したる蒙古國原

皇軍の恩威に集ふ民衆の新生の叫び聞きにけらずや